

# 12月供給の農産物の「放射能測定結果」をお知らせします！

～主食となる「お米」については「検出下限1Bq/kg以下」にて不検出、

その他農産物については「検出下限10Bq/kg以下」にて不検出の

安心できる商品をご案内しています！～

～12月より供給開始の「いちごとちおとめ」「ニラ」について、

それぞれ「不検出」です！～

毎週の『ひまわり』と共に、放射能汚染に立ち向かう私たちと各ローカル生産者の姿勢や考え方など随時お伝えしています。

表記の通り、私たちあいコープふくしまでは、これまで地元農産物の放射性物質に対する考え方として、毎日口にする「お米」については「検出下限1Bq/kg以下」にて、その他の農産物については「検出下限10Bq/kg以下」にて測定し、（もちろん全くのゼロとは言い切れませんが）それぞれ「不検出」のものを供給してまいりました。

※「検出下限」に関して、より正確に言えば『核種』それぞれ「10Bq/kg以下」ではなく、核種の『合算値』で「10Bq/kg以下」での測定と共に、その上で「不検出」の安心できる商品をお届けしています。

※「検出下限」は放射能測定機の精度の違いと、検査時間によって大幅に左右されます。放射線は核種よりランダムに放出されるため、より時間を長く確保した方が精密な下限値となります。従いましてあいコープふくしまでは精度の高い「ゲルマニウム半導体検出器」によって測定しています。

そして11月24日に開催してきた「ローカル生産者交流会」においても、「今後も『不検出』の“質”とその“維持”が問われている。農業にとっては『土』が命であり、そのため今後の用水対策や土壌への導入物対策など、命とも言える土を取り戻す継続した除染を行ない、作物への移行率が最大でも10%という中、私たちは『土壌90Bq/kg以下』を目指していく。自分たちの作る農産物に一点の曇りもないなら、風評の嵐も必ず静まります！」との意思統一を図ってきたところです。

各生産者によって検査機関は異なりますが、ゲルマニウム半導体検出器によって「出荷段階」で明らかになった12月より供給する農産物の放射性物質検査の測定結果（数値）について以下の通りお知らせします。

単位：ベクレル/kg

商品（対象試料）	生産者名	産地（場所）	採取日時	測定結果			
				ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	合算値
いちご	横田農園	須賀川市 （施設栽培）	12月 1日	検出せず (<3bq)	検出せず (<3bq)	検出せず (<3bq)	—
ニラ	森文男	須賀川市 （施設栽培）	12月12日	検出せず (<3bq)	検出せず (<3bq)	検出せず (<3bq)	—

※これまでの『農産物情報』でもお伝えしてきた通り、12月以前より供給してきた『お米』（須賀川市・森文男、大河原正信、水野一夫）、『りんご』（須賀川市・吉田果樹園）、『各種トマト』（須賀川市・岡部洋一）、『ブロッコリー』『ねぎ』『大根』（あぶくまGAP）、『さつま芋』『里芋』『人参』（成田市・堀越一仁）、『小松菜』『みず菜』（須賀川市・柳沼孝政）、『かぼちゃ』『キャベツ』『白菜』（三春町・おおもとG）、『野菜セット・愛菜箱』（福島県愛農会）、『そば』（湖南高原そば振興組合）など、全て「不検出」のものをお届けします。